

会 議 録

- 1 会議の名称 図書館協議会
- 2 開催日時 令和7年6月30日（月）午後1時～2時30分
- 3 開催場所 熊取町立熊取図書館 2階ホール
- 4 議題 案件1 令和6年度図書館事業報告について
案件2 その他
- 5 公開・非公開の別 全部公開
- 6 傍聴者数 0人
- 7 審議会等の概要

●案件1 令和6年度図書館事業報告について

【事務局からの説明】

「令和6年度図書館事業報告」（事前配付資料）について、重点的に取り組んだものや新しく取り組んだものを中心に報告。報告した事業は、次のとおり。

施策番号④ICTを活用した情報提供に関して「スマホ利用券」。

⑮施設の計画的な維持管理に関して、非構造部材耐震化への計画的な取り組みの一環として、ZEB化可能性調査を実施。今後は、令和7年度に実施設計、令和8年度に改修工事を予定。

⑳住民活動を活性化するための支援に関して、会議室・ホールの一般利用を開始。

㉔住民団体との協働による事業の実施に関して、多数の住民団体との協働により実施した30周年記念事業について、当日配布した「開館30周年記念冊子」と合わせて報告。

㉑子どもの読書環境の整備の事業概要「a子どもの読書活動を支える体制づくりの推進」に関して、子育て支援関連の3団体・熊取文庫連絡協議会・生涯学習推進課との6者合同で研修会を実施。

㉑子どもの読書環境の整備の事業概要「子どもが本に親しむ機会の充実」に関して、大阪観光大学・英語学習グループ・JICA 関西の協力で実施した「いろいろなことばのえほんのひろば」&JICA 関西展示関連イベントの報告。

あわせて、令和7年5月に開催された「熊取町子ども読書活動推進連絡協議会」での子どもの読書状況について報告等と、令和8年度に策定予定の「第5次子ども読書活動推進計画」に向けて実施した「子どもの読書活動に関するアンケート調査結果について」説明した。

【委員からの主な意見・感想等】

○「30年誌記念冊子」は、データをネットで公開するか。

→図書館のホームページに掲載する予定。

○児童生徒1人1台学習用端末での電子書籍の活用の検討について、令和7年6月から中学校で利用が始まった事に関して、タブレットを活用した学習の弊害等が問題になってきているが、電子書籍が子どもたちにとってふさわしいのか、読書だけに限らず、いろんな教科でも感じる。

○タブレットを使うようになると、文字を変換する操作が自然にやってくれるので、実際字を書く能力がすごく落ちている等の問題が言われているが、子ども読書に関連する会議で出ているか。
→子ども読書に関連する会議では出ていない。

→（委員から）学校ではデジタルと紙とどちらが大事かという議論はしている。ヨーロッパでは紙の教科書に戻っているところもある。校長会では自己との対話といったような意味で、紙の教科書の方がより思考力を深められるんじゃないかといったような議論があり、デジタルが果たしてすべていいのかということには疑問を持っている。

○「子どもの読書活動に関するアンケート調査結果」について、1人1台端末で小学校3年～6年の児童から回答をもらっているが、端末での回答が難しい1年2年も他の方法で質問できたら、就学前からの繋がりが見えてくるのではないかなと思う。

○「子どもの読書活動に関するアンケート調査結果」の学校図書館や熊取図書館にどんな本を置いてほしいかと言う自由記述に関連して、地域でしている文庫で子どもたちのリクエストによって、「サバイバル」、ヨシタケシンスケの絵本、「おしりたんてい」などを入れてみると、子どもたちがすごく夢中になって読んでいた。一定読んでしまうと、図書館に置いてるような読み継がれた本に手を出していつているので、学校図書館でも選書をもっと自由に子どもたちのリクエスト聞くようにしていくといいと思う。また、中学校で、学校図書館をもっと気軽に使えるような工夫がどこともできていないが、ある公立中学校で学校司書が自由にギターを弾きながら、子どもたちと一緒にライブをしている例があり、もっと子どもと一緒に遊ぶぐらいの学校図書館作りができればいいと思う。熊取の場合はずっと小さいときからきめ細かくいろんな形で地域のボランティアの人たちの力もあり、公共図書館がきっちりとやられているので、それで終わるのでなくて、繋がっていくのではないかなと思う。

○「つどいのひろば事業」のねらいは、子どもに絵本に興味を持たせること。1歳児は、本が何かわからず、おもちゃと思って遊ぶ。少しずつ読み聞かせをすると、だんだんと絵本に興味を持ってくる。絵本を面白そうに読んでいたら、寄ってくる。2歳から3歳になってきたら、自分で本棚から選んでくるようになる。表紙がわかるよう並べると、自分の好きな本を取って持ってくるのでそれを読んであげると、他の子が寄ってくるという効果があり、とにかく絵本に興味

を持たせる。中の意味が少しずつわかるようになってくると、読み聞かせをしてもより楽しんでもくれる。保護者によく言うのは、子どもが好きな絵本を何遍でも読み聞かせしてあげて欲しい。子どもは、同じ本を何遍も読んでと言ってくるが、読んであげることが大事なことだと思う。

○保育園での文庫は、子ども達が文庫の時間を楽しみにして来てくれていて、2歳ぐらいは本を読むことよりも本をいっぱい出して運んできてくれたりすることが多いが、5歳ぐらいになると読んで読んでと本を持ってきたり、子ども同士で読んだりする。友達の読んでも本がすごく気になるようで、ある子が読んでも本を次に借りたいというのが連鎖して、その年度ごとのクラスで、人気になる本が出てきたりする。そういう友達の本に興味を持ったりするのが、文庫のいいところかなと思う。小学校に上がるとそういうことも減ってくるようで、だんだん、本に興味のある子が減ってくるみたいで、ちょっと寂しいなと思う。

○子どもの話などを聞いてると、調べ学習でChromebook を使っているとなると、Chromebook の検索だけで調べ学習のすべてが完結してしまってる子がいるようで、本で調べることとChromebook の両方使うことがない。端末だけですべて検索が完結してしまうのは、ピンポイントで検索ができるけれども、本より調べることの広がり少なく感じる。

○統計を見ると、利用者は横ばいかな。着実に減ってるということだけ。

→着実に減ってる。いろんなことを考えるが、利用者が増える方向になかなかいかない状況。

→(委員から)正直不動産というドラマで、人がいても地域ではない、人の繋がりが合って地域であるというような台詞で終わったけれども、賑やかしのための図書館が結構できてきているが、にぎやかであっても人は繋がってないわけで、だから、熊取町の図書館の活動が重層化していて、個人のサービスもあるけれども、図書館でネットワークを作るという作業をしているので、評価の基準を地域の将来にフィットしてるような、今の時代にあったような評価基準を持っていることが改めて必要かなと思った。

●案件2 その他

○6月議会で、図書館に対する一般質問が出たので、その内容について報告した。

○大規模改修工事をしているときは、閉館するのか？

→できる限り開館する予定。主には一般開架室の工事になるので、児童室メインで開館しようと考えているが、児童室の床を改修するときは閉めないといけないかもしれない。また、先日実施した熊取図書館のアンケートの中で、トイレの改修が断トツで望まれているが、トイレの改修はすごい音がすると言われているので、その間もしばらくは休まないといけないかもしれない。その時々スケジュールを組みながら開けられるところは開けるようにしたいと思う。

○これから社会として縮むのは絶対的で、今どういう判断をして、どういうまちづくりをする

か。熊取町は3大学あるが、いつ大学がつぶれるかわからないぐらい学生がどんどん減ってるので、おそらく突然潰れる。いろんな事業体が突然やめる。だから、よほど住民が賢くないと対応できないことなので、こういう公共空間でいろんな意見が常に共有されてるというのは、地域のセーフティーネットだと思うので、賑わえばいいという図書館ではいかがかなとは思う。

○事業報告の方法について、段々と紙の資料を配られてそれを見る機会が少なくなり、スクリーンに出してそれで見ると言うことが多くそれに慣れてしまうと、紙の資料のここをご覧くださいと言われて探すのが大変なので、可能ならスクリーンに映しながらの形の方がついていきやすいと思った。また、事業報告だけでなく、全体として、1年間の総括、来年度に向けての課題を簡単に書き足すといいと思う。その時に、計画も単年度毎の計画だけでなく、長期的なこともあるはずなので、両者の利点、或いは短所を拾いながらどうバランスをとっていかとか、長期的な展望の中で短期的なところで何をするかというように両輪のようにやっていく。

○総合的にいろいろやるっていうことと同時に、熊取であるからこそその個性、せっかくコミュニティの広がりがあるということなので、これをうまく表現しながら、熊取の図書館の個性、我々の理想とする熊取の図書館、他にはないここに来たらこういう体験ができるみたいなそういうふうなキラキラするものとを合わせて報告してもらい、我々はここへ向かっていきたいのでいろいろご意見くださいとプレゼンしてもらえるといい。

○不登校の子たちに何かできることがないかと活動している中で、高校2年で高校を辞めて通信教育に切り替わった子に、図書館に行って自習しようと誘った時に、こんなサービス（学習スペース）があったことをその子は知らなかった。不登校の子たちは、学校に行かない時間に家に居たりするので、午前中は学習スペースが空いているので、何か話ができる機会があればいいなと思ったのと、不登校の子たちが交流できるようなスペースがあればいいなと思った。

○本に興味のない人に図書館に興味を持ってもらうのに、図書館で働く人たちがどういう思いで働いてるか、実際その図書館ってどうやって運営されてるのか、その本を好きな人が何で本が好きなのか、その背景のストーリーが見ることができると、個人的には興味を持てると思った。

○子どもに本を好きにさせるというのは、本がそばにあって読んであげる人がそばに居て、それに尽きると思う。熊取は、就学前の子どもたちがおもちゃのように本にふれることを実践されていると思う。その子たちが学校に上がった後、地域で本を読んでいた子どもと、そういう機会がなかった子どもとの差は大きいということを聞いた。

○「ひろがる図書館の輪」から、住民と一緒に作っていった30周年事業では、たくさんの人た

ちが図書館のいざというときに協力し合ったので、すごい驚きだった。「ひろがる図書館の輪」は図書館を利用されている人をキャッチして協力してもらい、また、協力したくなるというところもあって、先見の明があったと思った。

○議会で図書館の質問された議員は、熊取図書館のいろんな資料も読まれて、この周辺の図書館の状況もいろいろ調べられての質問だったので、それはありがたかったなと思った。その中で、駅に24時間利用できる返却ポストがあったらいいと言う発言に、賛同している傍聴者もいた。

○本を読むというのがどういうことなのか。絵本がおもちゃから始まり、読む力、読書に何を求めるか、いろんな考え方があがるが、一人一人が違うと思うので、それにどこまで対応できるかが図書館に行こうかなと思えるきっかけになっていくのかなと思った。

○図書館は公共財で1つで、本が好きな人だけのものではない。それぞれの市民が自分の幸せを実現するため公共財を糧にする。特に幸せはみんな違い、全く相対するものが混在してるわけだから、それを共存するためには、お互いに何を幸せと思ってるかということがわかる空間がないと、お互い攻撃し合うだけになるので、だから、本は読まないけど〇〇が好きというようなことが語り合える空間があることが一番重要。おそらく賢く縮むためには、また、2100年を迎えるためには、そういうことはやっぱり公共空間がやっていかないと、ひどい分断と争う社会になるんじゃないかなと思う。役場の職員の役割が重要になっている。

○次回の図書館協議会は10～11月頃に開催予定。

8 審議会の情報	名称	図書館協議会
	根拠法令等	図書館法、図書館条例
	設置期間	平成6年4月1日～
	所掌事項	図書館の運営に関する事
	委員数	10名

9 担当課	図書館
-------	-----